

選書ツアーに行ってきました!!

夏冬年2回行っている選書ツアー。10回目の今回は2017年1月31日に実施しました。「ココリア多摩センター」ビル内の「ジュンク堂丸善」の店頭で、参加者が本を自由に見ながら選びました。参加者から感想を一言。

佐野友香 現代社会学科4年

選書ツアーに今回初めて参加して私自身が興味のある分野や、自分で買いたくても手を出せていない本などを選んで満足です。また機会があったら参加したいです。

近藤里夏 日本語日本文化学科2016年度卒業生

1年の時から選書ツアーに参加して感じていたことは「自由に本を選べる贅沢さ」です。考えてみるとこれは凄く貴重な体験だと思います。図書館のお誘いで自分の好きな本が選べる。それを図書館に入れて貰える！こんな素敵な行事ってあるでしょうか？(笑)

私にとって選書ツアーは、個人的な興味・大学で是非皆に読んでほしい・これは大学に入れておきたい！等々...様々な視点から一冊一冊の本を手にとって選ぶという行為は自分にとって凄く新鮮で楽しみなイベントでもあり、本や蔵書という視点から大学の事を深く考える隠れたもう一つの行事でした。

毎年長期休暇前になると、図書館の入口を確認して選書ツアーのポスターを確認していた事を思い出します。

色んな本との出逢いを大切にしてください。そして、一人でも多く選書ツアーに参加してくださることを願っています。

今回の選書ツアーで選ばれた本は図書館のカウンター前のコーナーに参加者手作りのポップとともに、展示されますので、ぜひ見たり、借りたりしてみてください。図書館HPの「ブックログ」でも今回選ばれた本が見られます。

次回はあなたも参加してみませんか？

蔵書点検を終えて

2月に10日間にわたって行われた蔵書点検。
作業に参加したアルバイトの学生さんの感想です。



高橋桃子 歴史文化学科4年

初めて図書館の蔵書点検のアルバイトをしました。本の読み込みや清掃をして、肩や肘、足が痛くなる毎日でした。肉体労働ではありませんでしたが、この蔵書点検をしてとても良い体験となりました。それは、時間内で効率よく正確に行動するということです。本の読み込みは漏れがないようにし、本の背表紙の状態を確認します。清掃では、埃を払って本を元に戻します。この作業を皆で手分けをし、期間内で仕上げます。時間を気にしつつ、丁寧に素早く行って責任を持つことは、このアルバイトだけではなく、他でも通用すると思いました。この経験を忘れずに、生かしていきたいと感じました。そしてさいごに、図書館員の皆さん、後輩に感謝しています。

森田瑞 歴史文化学科2年

春休み期間中に大学図書館の蔵書点検のアルバイトに携わらせていただきました。今回蔵書点検のアルバイトに参加させていただいたのは、私自身本好きなので図書館でのお仕事を頂けるなんて幸いだと思ったためでした。仕事内容は蔵書のチェックと書棚の清掃だったのですが、これが思いがけず力仕事だったので身体中が筋肉痛になって大変でした。しかし、蔵書点検では自分の興味の有無に関わらず様々な分野の書籍の点検を行うので、たとえ関心のない分野であっても面白そうな本があれば「後で読んでみよう」と思え、新たな関心分野の開拓に繋がりが楽しい仕事でした。また、楽しい仕事ではありますが蔵書点検中に面白そうな本を見つけても、仕事に読むわけにはいかないので忍耐は必要でした。貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

安田杏香 日本語日本文化学科2年

今回のアルバイトを通して、どのように蔵書点検をするのかを知ることができました。まず、本に貼られているバーコードを専用の機械で読み取り、読み取った本は背が棚板につくように倒すという作業をしました。本を倒していく作業は自分が思っているよりも重労働で、翌日は腕や脚が筋肉痛で痛みました。心地の良い疲れを感じることができて良かったです。

そして、作業をしている中で大学内の蔵書の多さに気づくことができました。地下には多くの書架があり、地下にはどれほどの本があるのか正直知りませんでした。今まで知らなかったため、惜しい気持ちになりました。これからは、積極的に図書館を利用させていただきたいと思います。こうしたことを知る機会を得られて、大変良かったです。



書架掃除には軍手と
マスクは必須アイテム。



「Trio! で読書」

「3冊セットでいかがですか？」

『神との対話①』全3巻 N.D.ウォルシュ著 サンマーク文庫 (2002)

『しんがりの思想—反リーダーシップ論』

鷺田清一著 角川新書 (2015)

『人間を磨く—人間関係が好転する「こころの技法」』

田坂広志著 光文社新書 (2016)

大学生になった皆さん、そして今大学で学んでいる皆さんに紹介したい本として、この3冊を選びました。「学生が元気になるような本を」との要望をいただき、真っ先に思いついたのがこの3冊でした。高校までと大学での学びの違いは、「先達によって創られた社会を学ぶ」段階から「これからどのように社会を創っていったらいいだろうかを考える」段階へと変ることです。だから、「正解がない」のです。これからの日本において、皆さんが直面する最大の問題は何だと思いませんか？ それは「人がいなくなる」ということなんです。日本の人口推移は2010年を頂点に、以降ジェットコースターのフリーフォールのように急減します(※)。私は、そのような中であって、人たちが幸せに生きてゆける社会を創るためには、お互い「活かし合う」他ないのだと思っています。少ないパイ(人)を「活かし合う」社会です。そのためにあなた自身を「活かす」方法を身につけて欲しいし、ペースの合わない人をも「活かせる」ようになって欲しいのです。グループディスカッションやグループワーク、苦手ですよ。私もです。変な人だと思われたら嫌ですよ。頭が悪いと思われたら怖いですよ。恥ずかしいですよ。そんな閉じた自分を見つめつつ「だからこうしてみるんだよ、考えてみるんだよ」と諭してくれるのがこの3冊です。パイ(人)の少ない社会では、これまで以上にさまざまな役割を担わざるをえず、そこで自分を律する苦しみを認識しつつ、自他を受け容れられる思考を身につけることが求められるのだらうと思います。ぜひ、「仕合わせに生きる」方法をみつけて欲しいと希っています。

※webサイト「東洋経済ONLINE」(2016.12.08・12.15)TKO木元の「基礎から知りたい」|日本人は「人口急減の恐怖」を直視するべきだ〔前編・後編〕をぜひご覧下さい。

喜田安哲(社会園芸学科)

恵泉女学園大学図書館報

ΑΛΕΞΑΝΔΡΕΙΑ (アレキサンドレイア) no.47 2017.4

発行 恵泉女学園大学図書館 〒206-8586 東京都多摩市南野2-10-1

Tel. 042-376-8441/Fax.042-376-8336